

あつてはならない差

私は、世界中の水について興味を持ちました。きっかけは、一年生のころの社会の授業です。このことについて少し先生がふれていたこととです。日本の子どもにもコップにはいった水を書いてというのと、水の色はだいたい青色や水色でぬります。ですが、アフリカとか水の環境が整っていない場所で、同じように水を書いてもらうと、水の色が茶色だったということでした。このとき私は、人間は水を飲まないと生きていけないぐらい大事な水にこんなにも差があつていいものかと思いました。そこから調べてみようと思いましたが。水の問題は、SDGsの六「安全な水とトイレを世界中に」にあてはまることを知りました。これを知ってトイレもきれいなじゃないんだなと思いましたが。そこで、世界の水がどうなっているのか、それを解決すべく、活動している

山添村立山添中学校 二年

増田 凜香

団体について調べてみました。私が思っていた以上にこの問題は深刻でした。水が確保できないだけでなく、多くの子どもたちの命や将来を奪っているからです。日本は、蛇口をひねると安全な水が使えますが、世界では水道があっても飲み水として利用できないほど水が汚れています。二〇一九年のじてんでは、世界で安全な水を使うことができない人が約二十二億人いると言われていました。池や川の水は、ほとんどが汚れた水です。病原菌や寄生虫が存在し、それらを含む水を使うと病気になることもあります。特に、知能の発達や身体の未成熟な子どもにとっては取り返しの付かない事がおこる可能性があります。また、紛争が多いアフリカの地域の子どもは特に危険です。ユニセフの発表による

と、長く続く紛争の影響を受ける国でくらす子どもたちは、暴力で命を落とすよりも、水や衛生的な環境の欠如により、下痢になり命を落とす可能性のほうが高いとされています。私は逆だと思っていたのでとてもおどろきました。それを飲んでいると思うと、助けがほしいと思います。

次に、実際に行われている支援について調べました。水の問題に対して、効果的な方法は、水道施設や浄水施設などを整備することです。多額の資金が必要になってきますが簡易的なものであれば、NGO・NPOの支援で実現することができます。井戸を作り、実現できた場合、いつもNGO・NPOが管理するわけにもいかないので、現地の人が管理できるように、衛生管理の指導や育成も行っています。また、基礎的な衛生を根付かせるために、屋外排泄の改善や食前の手洗いなどの衛生習慣の指導も行っています。この方法は、なかなか中学生にはできません。そこで、日本からでも、中学生でもできる支援を調べました。募金や寄付を通して支援活動の手伝いができます。寄付をすると、例えばORS

(経口補水塩)、家庭用の衛生キットなどを多くの子どもたちに提供することができます。また、一錠で四〜五リットルの水を浄化できる浄水剤を買うこともできます。これらは、数千円でできます。しかし、水に困っている人はまだまだ多く、活動を継続して行っているための資金や人材がたりていない状況です。世界には、安全な水が確保できていない国に、NGO・NPOなどが現地の人々と協力し、水が確保できるように取り組んでいます。私は、少しでもはやく、安全な水が飲めるようになることを願っています。水は、どの国でも必要です。安全な水が飲める国、飲めない国、そんな差があつてはいけないと思います。自分にできることがあれば、どんどんしていこうと思います。